

日本科学者会議	2014.0110	〒910-8507 福井市文京3-9-1 福井大学大学院 森透研究室TEL/FAX0776-27-8725 e-mail: t-mori@u-fukui.ac.jp 郵便振替口座00710-9-17967 日本科学者会議福井支部
	福井支部ニュース	

＜日本科学者会議福井支部 2 月例会＞

「県内の再生可能エネルギーの 取組みについて」

再生可能エネルギー全量買取制度が発足してから、大手企業なども盛んに取組んでいる状況の中、県内の動向に目を移すと社会で騒がれているほどトントン拍子に進んでいないのが現状です。国の政策が徐々に変化中、未だ現状維持派が既得権益を固持し、地域の創造的な未来を模索することさえままなりません。

科学の世界にも人間の幸福というモラルある開発が求められる昨今、人間の基本的な人権すら守ることができない行きすぎた科学者の世界。作ってしまったことに責任を取らない科学者、政治家、企業経営者などに自戒を求めたいと思います。

そこに一筋の光とも言うべき、色々な人々が自発的に動き出した地域も出てきました。更に、国や県などの支援を受けながらも、再生可能エネルギー（持続可能エネルギー）の取組みが始まりました。未来の世代に残すべき社会像のために、今私たちは大きな岐路に立っていると思います。そこで、それらの活動や取組みを網羅し、そこから生まれてくる未来像を皆さんと一緒に語ってみたいと思います。（講師より）
（講師より）

日時:2014 年 2 月 9 日(日)13 時—15 時

場所:福井大学教育地域科学部 1 号館 1 階 12 講義室

講師:増田頼保氏

(画家 所属:ARTES TRASTOS 株式会社 代表取締役、NPO 法人森のエネルギーフォーラム 副理事長、協同組合プロード 理事、福井小水力利用推進協議会理事、大滝小水力利用協議会事務局、NPO 法人 CANVAS フェロー、仁愛女子短期大学非常勤講師、福井県立大学非常勤講師)

◎支部会費を納入ください<半期 6000 円 (2014 年 1 月—6 月)>。滞

納の会員は分割でも結構ですので、よろしく願います。

＜日本科学者会議福井支部 11 月例会の報告＞

去る 11 月 25 日（月）に福井大学にて 11 月例会を開催し、服部茂幸氏（福井県立大学経済学部教授・経済学）に「新自由主義の帰結」と題する講演をしていただいた。この内容については幹事の福井県立大の山川修氏が『日本の科学者』2月号の「科学者つうしん」に報告原稿が掲載される予定ですので、以下にご紹介します。

「2013 年 11 月 25 日に福井大学で開催された福井支部の 11 月例会「新自由主義の帰結」に参加した。講師は福井県立大学経済学部教授の服部茂幸氏である。氏は 2013 年 5 月に岩波新書として同名のタイトルの本を上梓されている。

最近の米国や日本で起こっていることを見ると、新自由主義がお金持ちに、よりお金を集める方向に向かっていることは誰の目にも明らかであろう。このことは、堤未果氏の著作である「政府は必ず嘘をつく（角川 SSC 新書）」でも、コーポラティズム（大企業と政府が一体になった国家運営体制）の流れの中で起きてくることが指摘されている。服部氏は、新自由主義の中心になる企業が、米国では金融業界であり、日本やドイツでは製造業であると看過されていたが、この指摘には納得がいった。

ただし、金融業主体の新自由主義は 2007 年に起きたサブプライム金融危機により、その矛盾が表出したが、製造業主体の日独型・新自由主義では企業活動が活性化すれば、一般の労働者にも自然に富みが浸透するという、トリクルダウン説が幅を利かせており、日本でも企業優遇の政策が進められている。例会の途中で、製造業主体の新自由主義において、金融業主体の新自由主義のように、矛盾が表出した例の有無を服部氏に質問したが、そういった例は今のところ見当たらないということであった。

今回の例会は、新自由主義に対してそれを批判する立場からの解説であったが、新自由主義を立場とする方との議論が聞けるような会であれば、経済が素人の私でも、それぞれの考え方の特徴がよりハッキリとわかるようになったのではないかと少し残念な気持ちも残っている」

＜参加者からのアンケート＞

- * 男・50 代・永平寺町「英米型と日独型の新自由主義のちがいはなるほどと思いました。」
- * 男・60 代・福井市「僕自身は「新自由主義」の政治的側面にもう少し照明をあてていくべきと思います。アベノミクスの現実的将来を聞きたい。」
- * 男・60 代・福井市「指摘された事例のあれこれを含めて、とてもおもしろい話であった。新自由主義の型にも、英米型と日独型との違いがあるというのは、たしかにそうかなと思われた。」
- * 男・60 代・福井市「英米型と日独型の違いがおもしろかった。福祉国（北欧型）が新自由主義でありながら豊かな国になっているのが印象に残った。」
- * 女・70 代・福井市「おもしろかった。すっきりしていて分りやすかった。なぜ、米国が日本にもものすごく高い武器を売りつけるのかが分った。米国にとっては一石二鳥と言ってもよいのかな。いつになったら、軍事と経済の深い結びつきがなくなるのでしょうか。」

＜講演者の講演内容紹介＞

1970 年のスタグフレーションの中で戦後資本主義は行き詰まった。この行き詰まりを解決すると

称して、登場したのが新自由主義である。新自由主義に基づく制度と政策はアメリカ（とイギリス）を復活させたと思われていた。しかし、実際に新自由主義が作り出したものは、格差とワーキング・プアーであり、世界に広がる金融危機であった。これまで信じ込まされていた新自由主義の思い込みの誤りを正す。（講演者より）

*参考文献：服部茂幸『新自由主義の帰結—なぜ世界経済は停滞するのか』岩波新書、2013. 5

滋賀県『彦根市史』問題を考える

昨年秋に会員の高木和美氏（岐阜大学）より滋賀県彦根市が発行している『彦根市史』についてのご相談があり、12月9日の幹事会に出席していただき詳しく報告していただいた。問題の所在を簡単に述べれば、高木氏も含めた『彦根市史』「現代編」執筆者の記述が問題ありとして、彦根市長が発刊を中止するという例を見ない暴挙の事態が生じていることである。専門家により学問的に記述された内容が市長の政治的権力によって一方的に否定されることは、他の府県史においては先ず見られない事態である。執筆陣は裁判に訴えているが、福井支部としてもできる限りの支援を行なうことを幹事会で決定し、以下の支部声明を発表したので、掲載誌、会員の皆様にもお知らせする次第である。（事務局・森）

彦根市当局による『新修彦根市史 通史編 現代』の発刊を求める声明

2013年12月20日 日本科学者会議福井支部幹事会

現在、専門の研究者が書き上げた『新修彦根市史 通史編 現代』（以下『通史編 現代』）が新旧の彦根市長の意向により、発刊中止となるという前代未聞のことが起こっており、学問の自由と科学者の権利および責任に深い関心を寄せる日本科学者会議福井支部として、見過ごせない問題であると考えます。

『通史編 現代』は上野輝将氏を始めとするそれぞれの専門家6人が「市民のための市史」として、できる限り直近まで叙述してほしいという市長の要望に対応しながら長期間をかけて書き上げたものである。その原稿は2009年（平成21）12月22日、古代や中世などの専門家の部会に属する部会委員から構成される編集委員会において承認され、700ページの確定原稿となったものである。翌年の3月には執筆料も支払われているので、市当局はこの原稿を検査の上で受領したものと見なされる。

ところがこの後すぐに前市長が原稿は「不合格」だと言い始めた。その理由は彦根西高校教師の不当配転撤回闘争、近江絹糸労働争議、過去の市長選挙に関する叙述が不当であるというものであった。やがて前市長は「政治的判断」によりこれを刊行する気はないと発言した。2010年（平成22）11月22日、市史の基本を検討する編さん委員会では発行をめぐり前市長と執筆者との間で激論が交わされ、その結果2010年度の発行は見合わせる事が決定された。前市長の原稿に対する意見というのが、根拠をあげて補正を求めるというものでなく、前市長の歴史観が発刊しない理由になっていることに注意しておきたい。

その後前市長側は事態打開のための目立った動きを見せておらず、2013年（平成25）4月の市長選挙で選ばれた新市長も前市長の方針を引き継ぐとともに、「総合的判断」として発刊を中止す

ることを決め、10月に現代の部会委員と編さん委員に説明を行った。その中止の理由は形式的なものが多いが、執筆者の立ち位置が特定の側に立っていることが挙げられているので、前市長の考えを踏襲していることがわかる。2010年(平成22)11月22日の編さん委員会の決定は2010年度中の発行を見合わせるというものであったが、それが発行中止となった経緯についてもはっきりしない。そして2013年10月末で編さん事業の終了というのは、市民としても納得がいかないであろう。

以上の経過から、この『通史編 現代』が刊行されないのは、編集委員会で確定された原稿について、前市長が自分の考えに合わないところがあるとして「不合格」として刊行を拒んだところがあり、それを踏襲した現市長の態度にあるとしてよかろう。この『通史編 現代』は学問的著作であり、それが公刊されないとその学問的、社会的意味は皆無となり、本来市民が共有すべきものが、死蔵されてしまう。またわれわれにとって学問の自由が脅かされていることに危機感を抱かないわけには行かない。原稿の「検査」は検閲であってはならない。市長という政治的権力者の意に沿うような歴史叙述にしなければ公表できないということになれば、学問の自由や自律性は失われてしまう。

われわれはこの問題に深く関心を寄せ、『通史編 現代』の速やかな刊行を彦根市当局に要望する。

<連絡先> 日本科学者会議福井支部事務局

〒910-8507 福井市文京3-9-1

福井大学大学院教育学研究科 森透研究室

電話・ファックス 0776-27-8725

e-mail: t-mori(at)u-fukui.ac.jp

(atを@に書き直してください)

<北陸地方区シンポジウムの予定>

- ①日時&場所: 2014年4月12-13日(土・日) & 富山大学理学部。
- ②テーマ: 第1日目のテーマは環境問題で、市民公開シンポとする。イタイイタイ病や福島におけるもぐらの被ばく等の報告など。
第2日目は大学問題。富山大学から広瀬信氏(富山支部会員・富山大教組委員長)、金沢大学から楠井工学部長、福井大学から森透氏(支部事務局長)らを報告者候補とすることになった。
- ③シンポの講演論文のフォーマットや提出期限を含む執筆要項については、富山支部が決めることにした。

<編集後記>

2014年が始まりました。今年もよろしくお祈りします。安倍内閣の特定秘密保護法案の強行採決、靖国神社参拝など、総選挙での「圧勝」(得票率と獲得議席に大きなギャップは存在するが)による傲慢ともいえる最近の内閣の動向である。戦争をする国への暴走が始まる危惧を感じるのは私だけではあるまい。日本における民主主義と本当の世界平和を構築する草の根の闘いが今こそ求められていると痛感する。(森)